

5 福薬業発第 4 6 7 号

令和 6 年 1 月 2 6 日

各地区薬剤師会会長 殿

公益社団法人福岡県薬剤師会

常務理事 窪田 敏夫

**令和 4 年度「薬剤師の資質向上等に資する研修事業」に関する研修プログラム
提供開始について <e-ラーニング形式>**

平素より本会会務に格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、厚生労働省事業「令和 4 年度「薬局ビジョン実現に向けた薬剤師のかかりつけ機能強化事業【第 2 期】 薬剤師の資質向上等に資する研修事業）」において、薬剤師が患者に応じた適切な薬物治療を提供するために必要となる知識や技術を体系的に学ぶための研修プログラム及び研修プログラムを踏まえた教材（研修資材（PDF 形式）・研修用動画コンテンツ）が日本薬剤師会にて作成されました。

本会では、日本薬剤師会が作成いたしました研修プログラムを研修プラットフォームを通じて令和 6 年 2 月 1 日（木）より提供を開始いたしますので、別添のとおりご案内いたします。

ご多忙とは存じますが、貴会会員へご周知いただきますようお願い申し上げます。

記

・【別添 1】 令和 4 年度「薬剤師の資質向上等に資する研修事業」受講のご案内

・【別添 2】 令和 4 年度薬剤師の資質向上等に資する研修事業／かかりつけ機能強化事業（事業 1） 5 疾病・AMR 研修プログラム

以 上

令和4年度「薬剤師の資質向上等に資する研修事業」
(令和4年度厚生労働省事業)

「研修プログラム」受講のご案内

目 的：

日本薬剤師会が作成した本研修プログラムは医療計画に規定されている5疾病（がん，脳卒中，心不全，糖尿病，精神疾患）及び感染症（AMR 対策）に関する e-ラーニング研修であり、対人業務においてその専門性等を発揮し、患者及び患者家族等に寄り添った視点での薬学的管理・指導を行うことができることを主眼に置いている。

1. プログラム提供

令和6年2月1日～令和8年3月31日

※一部コンテンツの差し替え・更新、提供終了日の変更等を行う可能性があります。

2. プログラム名

- ①福岡県_令和4年度薬剤師の資質向上等に資する研修事業_がん
- ②福岡県_令和4年度薬剤師の資質向上等に資する研修事業_脳卒中
- ③福岡県_令和4年度薬剤師の資質向上等に資する研修事業_心不全
- ④福岡県_令和4年度薬剤師の資質向上等に資する研修事業_糖尿病
- ⑤福岡県_令和4年度薬剤師の資質向上等に資する研修事業_精神疾患
- ⑥福岡県_令和4年度薬剤師の資質向上等に資する研修事業_AMR

3. プログラム提供方法

日本薬剤師会研修プラットフォームを通じたオンデマンド配信

<https://nichiyaku.manaable.com/login>

ログイン・新規登録 > 研修を探す > 当研修プログラムをクリック後ご視聴ください



4. プログラム視聴料

会員および非会員：無料

5. コンテンツ内容

別添 2 をご参照ください

6. その他

研修単位：日本薬剤師研修センターの研修単位の取得はございません

以 上

令和4年度 薬剤師の資質向上等に資する研修事業／かかりつけ機能強化事業（事業Ⅰ）
5 疾病・AMR 研修プログラム

項番	研修項目	学ばべき事項	到達目標
1	患者等に寄り添った薬物療法支援と薬剤師（がん）	chapter1 ・がん対策の意義、治療における薬剤師の目標 ・がん患者及び家族の心理・心情の特徴 chapter2 ・がんの薬物療法の副作用の種類・発現時期・対処法 chapter3 ・がん患者インタビューのポイント、薬学的管理指導（フォローアップ）例	「がん」に関して、以下のa.～d.全般を理解し、薬学的な知見を踏まえて分析・評価を行うことにより、適切な服薬指導・薬学的管理につなぐことができる。 「a.疾患特性の理解」「b.医薬品特性の理解」「c.患者基礎情報の収集」「d.患者及び患者家族の心情の理解」 ポイント： ・がんの疫学と治療目標について理解する。 ・がん患者及び家族の心理・心情を理解する。 ・がんの薬物療法の副作用を理解する。 ・がん患者への薬学的管理指導について理解する。
2	患者等に寄り添った薬物療法支援と薬剤師（脳卒中）	chapter1 ・脳卒中对策の意義 ・脳卒中患者及び家族の心理・心情の特徴 ・治療における薬剤師の目標 ・脳卒中患者インタビューのポイント、薬学的管理指導（フォローアップ）例 chapter2 ・脳卒中再発の危険因子 ・再発予防のための生活習慣改善、指導のポイント ・脳卒中早期発見のために必要な知識共有	「脳卒中」に関して、以下のa.～d.全般を理解し、薬学的な知見を踏まえて分析・評価を行うことにより、適切な服薬指導・薬学的管理につなぐことができる。 「a.疾患特性の理解」「b.医薬品特性の理解」「c.患者基礎情報の収集」「d.患者及び患者家族の心情の理解」 ポイント： ・脳卒中对策の意義について理解する。 ・脳卒中患者及び家族の心理・心情を理解する。 ・脳卒中患者治療における薬剤師の目標について理解する。 ・脳卒中患者への薬学的管理指導について理解する。 ・脳卒中再発の危険因子について理解する。 ・再発予防のための生活習慣改善、患者指導のポイントについて理解する。 ・脳卒中早期発見のために必要な知識について理解する。
3	患者等に寄り添った薬物療法支援と薬剤師（心不全）	【総論】 chapter1【理論編】 ・慢性心不全の成因分類と特徴、病態分類とその特徴 ・慢性心不全の薬物療法（薬効群ごとの特徴） ・慢性心不全発症予防のための生活習慣及び適切な運動習慣 ・慢性心不全患者及び家族の心理・心情の特徴 ・慢性心不全対策の意義、治療目標 chapter2【実践編】 ・慢性心不全患者インタビューのポイント、薬学的管理指導（フォローアップ）例	「慢性心不全」に関して、以下のa.～d.全般を理解し、薬学的な知見を踏まえて分析・評価を行うことにより、適切な服薬指導・薬学的管理につなぐことができる。 「a.疾患特性の理解」「b.医薬品特性の理解」「c.患者基礎情報の収集」「d.患者及び患者家族の心情の理解」 ポイント： ・慢性心不全の成因分類と病態分類について理解する。 ・慢性心不全の薬物療法について理解する。 ・慢性心不全発症予防のための生活習慣・運動習慣について理解する。 ・慢性心不全患者及び家族の心理・心情を理解する。 ・慢性心不全対策の意義、治療目標について理解する。 ・慢性心不全患者への薬学的管理指導について理解する。
4	患者等に寄り添った薬物療法支援と薬剤師（糖尿病）	chapter1 ・糖尿病対策の意義、治療における薬剤師の目標 ・糖尿病患者及び家族の心理・心情の特徴 ・糖尿病患者インタビューのポイント、薬学的管理指導（フォローアップを含む）例 chapter2 ・低血糖、シックデイ対策とフォローアップのための患者支援 ・インスリントラブル対策とフォローアップのための患者支援	「糖尿病」に関して、以下のa.～d.全般を理解し、薬学的な知見を踏まえて分析・評価を行うことにより、適切な服薬指導・薬学的管理につなぐことができる。 「a.疾患特性の理解」「b.医薬品特性の理解」「c.患者基礎情報の収集」「d.患者及び患者家族の心情の理解」 ポイント： ・糖尿病対策の意義、治療における薬剤師の目標を理解する。 ・糖尿病患者及び家族の心理・心情の特徴を理解する。 ・糖尿病患者への薬学的管理指導について理解する。 ・低血糖、シックデイ対策、インスリントラブル対策とフォローアップについて理解する。
5	患者等に寄り添った薬物療法支援と薬剤師（精神疾患）	・精神疾患対策の意義 ・精神疾患治療における薬剤師の目標 ・精神疾患患者及び家族の心理・心情の特徴 統合失調症、大うつ病と双極性障害、認知症、発達障害に関して ・疫学・症状・薬学的管理指導例	「精神疾患」に関して、以下のa.～d.全般を理解し、薬学的な知見を踏まえて分析・評価を行うことにより、適切な服薬指導・薬学的管理につなぐことができる。 「a.疾患特性の理解」「b.医薬品特性の理解」「c.患者基礎情報の収集」「d.患者及び患者家族の心情の理解」 ポイント： ・精神疾患対策の意義と治療目標について理解する。 ・精神疾患患者及び家族の心理・心情を理解する。 ・精神疾患の疫学・症状・治療について理解する。 ・精神疾患患者への薬学的管理指導について理解する。
6	薬局薬剤師が取り組むAMR対策	【総論】 ・世界及び日本におけるAMRの現状 ・薬剤耐性のメカニズム ・AMR対策アクションプランと日本の現状 ・抗菌薬使用サーベイランスとその活用 【薬局薬剤師の立場から】 ・服薬アドヒアランス向上につながる患者指導の方法及び抗菌薬投与時の注意事項 ・医師への疑義照会時のポイント ・抗菌薬の予防投与時の注意事項 ・薬局における「抗微生物薬適正使用の手引き」の活用方法 ・薬局での抗菌薬使用量調査の有用性 ・市民対象のAMR教育活動の方法	AMR対策を薬局で実践するために、基本情報及び具体的な対策手段を理解する。 ポイント： ・AMRの現状について理解する。 ・薬剤耐性のメカニズムについて理解する。 ・AMR対策アクションプランについて理解する。 ・抗菌薬使用サーベイランスについて理解する。 ・抗菌薬投与時の注意事項について理解する。 ・医師への疑義照会時のポイントについて理解する。 ・抗菌薬の予防投与について理解する。 ・「抗微生物薬適正使用の手引き」の活用について理解する。 ・薬局での抗菌薬使用量調査の有用性について理解する。 ・市民対象のAMR教育活動の方法について理解する。